

題材名 『充実した係活動にしよう』（第5学年） 学級活動 内容（3）

本時のねらい

個人目標を考える活動を通して、創意工夫を加え充実した係活動にしようとする気持ちを高めることができるようにする。

題材構想の意図

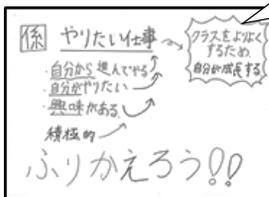
本題材では、新しい学期が始まって数週間が経ったところで、自分たちで考えた係活動が学級や自分を成長させる充実したものになっているか話し合います。そこで、事前の活動では、アンケートを行い、題材について話し合う必要感を高めます。本時では、現状を考える中で、自己を見つめ直すことができるようにします。事後の活動では、本時の話し合いによって意思決定されたことを、粘り強く実践できるように、定期的な振り返りを行います。

過程

主な学習活動

1. 学級の現状を把握し、問題を発見・確認する

- 計画委員は、係活動の意義について、以前に話し合った内容の掲示物を基に理解する。
- 係活動の現状について、アンケートを実施する。
- 計画委員がアンケートを集計し、それぞれの係活動が十分に機能しているか、教師と話し合う。
- 計画委員を中心に「会議計画書」を作成する。
- アンケートの結果を踏まえ、個々に自分の係の活動報告を書いておく。



〈児童が作った掲示物〉

これまでの活動から問題を発見させる

「2学期の係活動を決めよう」で、当番活動と係活動の違いについて話し合った掲示物を活用し、問題を発見させやすくする。

アンケートを活用させる

クラスの現状を把握するため、題材に合ったアンケートを行う。アンケート集計は、計画委員を中心に行わせ、自分ごととして問題意識を高められるようにする。自己を見つめ直すことができるように、アンケートの結果は本時の前に掲示しておく。

「会議計画書」を作成させる

見通しをもった話し合いができるように、計画委員を中心に「会議計画書」を作成させる。

事前の活動

2. 充実した係活動にするために個人目標を考える

【めあて】

クラスみんなのため、自分の力を発揮した係活動になるように、取り組む姿勢を見直そう。

- アンケート結果を全体で確認し、自分の活動の現状を考える。
- よい活動をしている係は具体的にどんなことをしているか全体で話し合う。
- よりよい係活動にするために参考になる活動はないか、他にしたい活動はないかなど各係に分かれて話し合う。
- 「係計画書」を書き直したり付け足したりして、仕事内容と目的を再確認し決定する。
- 係活動に取り組む姿勢について、個人目標を考え、学活ノートに書く。



〈係別での話し合い〉

児童主体の話し合いができるようにする

計画委員が作成した「会議計画書」を基に、話し合いを進行させる。司会には安心感を与えるため以下を準備する。

- ・大まかな流れを記した「会議進行表」
- ・困ったときに使える言語集「ヘルプカード」
- ・教師に助言をもらう「ヘルプベル」

全員参加の深い学びを目指す

同じ係同士でグループを作らせる。なお、一人の係は一人の係同士でグループになり、アドバイスしやすい環境を作らせる。意見が言いやすいように、前に書いた「係計画書」を基に話し合いが進むようにする。

学活ノートを活用させる

一人一冊配布したA5判ノートを活用させる。意欲を高めるために、ノートの名前を自由に付けさせ、このノートの使い方を裏表紙に貼らせる。

- ・事前…題材に対する自分の意見等の記入
- ・本時…会議中のメモ、振り返りの記入

本時の活動

3. 決めたことを実践し、振り返る

- 係の仕事がスムーズに進んでいるかを確認するために、月1回、振り返りを記入する。
- 書き直した「係計画書」を掲示し、各係ごとに予定している活動を行い、その時に応じて適宜仕事内容を調整する。
- 帰りの会で「係からの連絡」を活用し、活動報告を定期的に行い、各係の活動を知る機会を設ける。

継続的な実践を促す

定期的な振り返りを行い、仕事内容を改善したり見直したりして、よりよい活動ができるようにする。決定事項を掲示物にしておくことで、いつでも振り返りができるようにする。

主体的な事後活動になるようにする

自分やクラスのため、話し合いを通して意思決定したことを粘り強く取り組めるようにする。前向きに考えられるようにし、次の課題解決へ、意欲を高められるようにする。

事後の活動

指導のポイント

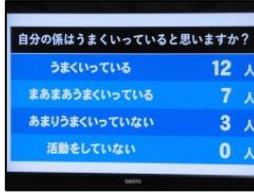
指導例：『充実した係活動にしよう』（第5学年）

1 話し合いのめあてをもつ。

つかむ

○係活動の意義について考える。

K：クラスをよりよくする活動ができていますか。
 S：仕事を忘れずやっているのよくてきていると思う。
 S：うまくいっていると思っていたけど、そういえば、あまりみんなが活動に参加してくれないな。



<アンケート結果>

【めあて】

クラスみんなのため、自分の力を発揮した係活動になるように、取り組む姿勢を見直そう。

2 係活動について話し合う。

さぐる

○各係の活動報告を行い、充実した活動について話し合う。

K：各係の活動報告を聞きましょう。
 S：予定係です。みんなが忘れ物をしないように、一週間分の持ち物をプリントにまとめて配布しています。
 S：レク係です。まだ、計画をしているところです。来週から週に1回レクをやろうと思います。
 K：充実した活動とは、どんな活動でしょうか。
 S：みんなのために工夫している活動です。
 S：やりたい活動ができています。
 K：今、よい活動をしている係はありますか。
 S：お笑い係は、クラスみんなのことを考えて活動をしていると思います。
 S：チェック係は、宿題忘れが減るように、工夫した活動をしてくれています。



<全体 コの字>

見つける

○活動内容を見直すため、係別に話し合う。

K：よりよい係活動にするために「係計画書」を見直しましょう。
 S：みんなに知らせる掲示物を作りたい。
 S：体育係みたいに、自分たちから声を掛けよう。
 S：みんなが一週間忘れ物をしなかったら、レク係と協力してレクをしようよ。
 S：この活動は結局やっていないから、別の活動を考えよう。



<係別グループ>

3 個人目標を決める。(意思決定)

決める

○自分の考えを学活ノートに書く。

K：係の仕事は、どのような考えをもってやっていきますか。
 S：みんなの仕事にも協力してあげようと思います。
 S：みんなのためになるように、活動を工夫したいです。
 S：自分が楽しくて、みんなのためになるように頑張りたいです。
 S：係は自分がやりたくてやる仕事だから、責任をもって忘れずにやります。



<学活ノート>

○話し合いのまとめをする。

K：今回の話し合いについて、感想を学活ノートに書きましょう。
 T：活動内容の見直しのできたので、自主的な活動ができることを期待しています。

問題を発見・確認させる

- アンケート結果を掲示し、自己評価をさせておくことで、自分自身とのつながりを意識できるようにする。
- 活動報告を事前に書かせておき、どんな考えや思いをもって活動をしているのか、各係で確認し合うようにする。

計画委員を中心に進めさせる

- 計画委員が中心となって作成した「会議計画書」を基に進行させる。
- 会議が児童中心で進むように、「会議進行表」を司会に用意し、参考にできるようにする。
- 困ったときに使える文例集「ヘルプカード」を用意しておく。
- 教師のアドバイスをもらいたいときに使う「ヘルプベル」を用意しておく。

全員参加の深い学びを促す

- 全体では、コの字形態にし、途中の話し合いで係別にグループを作らせる。一人の係は、一人の係同士でグループにさせ、アドバイスし合えるようにする。
- 事前に書かせておいた「係計画書」を基に話し合わせることで、改善点を発見しやすいようにする。

主体的な活動につながる個人目標を考えさせる

- 話し合いを受けて、自分の考えをまとめさせる。
- 決めた個人目標をグループで交流し合ったり、全体で発表したりして、様々な考えがあることに気付かせ、みんなで協力して主体的に取り組めるようにする。

学級活動学習指導案

平成30年9月 第5学年 指導者 森下 千秋

I 題材名 「充実した係活動にしよう」

II 学習指導要領上の位置付け

(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現

イ 社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解

清掃などの当番活動や係活動等の自己の役割を自覚して協働することの意義を理解し、社会の一員として役割を果たすために必要となることについて主体的に考えて行動すること。

III 目標

ア (知識及び技能)

係の仕事はなぜやらなければならないのかを理解し、自己の力がどのように生かせるかを考え、行動の在り方を身に付けられるようにする。

イ (思考力、判断力、表現力等)

クラスをよりよくするための係の仕事内容を考えたり課題を見いだしたりして、解決のために話し合って意思決定し、主体的に活動することができるようにする。

ウ (学びに向かう力、人間性等)

自己のよさや能力を理解し、それを生かすような目標を立てたり活動を考えたりする中で、他者と協働して係の目標達成を目指しながら主体的に行動しようとする態度を養えるようにする。

IV 指導計画 ※別紙参照

V 本時の展開

- 1 ねらい 個人目標を考える活動を通して、創意工夫を加え充実した係活動にしようとする気持ちを高めることができるようにする。

2 展開

学習活動 (分) ○ : 留意点 点線囲 : 評価 ☆ : 振り返りの子供の意識

1 話合いのめあてをもつ。

つかむ (10分)

- 当番活動と係活動の違いについて、全員で確認をし、議題について正しく理解させる。
- アンケート結果から、自分の係活動がクラスの生活を豊かにし、自分を成長させるような活動をしているか考えることをつかませる。
- どんな考えや思いをもってやっているのか、何のためにどのような活動をしているかを各係で確認する。

めあて クラスのみんなのため、自分の力を発揮した係活動になるように、取り組む姿勢を見直そう

2 係活動について話し合う。

さぐる (15分)

- 各係の活動報告を行わせることで、他の係の活動について知ったり自分の係の活動を振り返ったりできるようにする。
- 充実した活動とは、具体的にどんな活動をしている係なのか、よくできている係の仕事内容を参考にさせてさぐっていく。

見つける (15分)

- よりよい係活動にするために参考になる活動はないか、他に入れたい活動はないかなど、各係に分かれて話し合う。
- 「係計画書」を書き直したり付け足したりして、仕事内容と目的を再確認し決定する。
- 一人の係は一人の係同士でグループになり、お互いにアドバイスをし合えるようにする。

よりよい係活動になるように、今までの仕事を振り返り、係計画書を加筆・修正している。(思考・判断・表現)【係計画書・観察】

3 個人目標を決める。【意思決定】

決める (5分)

- どんな考えで係活動をやっていくか、個人目標を学活ノートに書き、グループで交流する。
- 個人目標が具体的で実現可能なものになるように、机間支援を行い、励ましの言葉を掛ける。

☆新しい係なので、みんなのためになるように、友達の意見を聞いて活動したいと思います。

過程	基本的な学習活動 ◇学級全体 ◆計画委員	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた 授業改善等のポイント	◎目指す児童の姿 (観点)【評価方法】
事前の活動	1. 問題の発見・確認 ◇題材について知る。 係活動とはどんな活動かを考える。 ◆問題を確認する。 係活動についてのアンケートを実施する。 ◆共通の課題を設定する。 係活動が機能しているか計画委員と話し合う。 ◆活動計画を作成する。 計画委員を中心に「会議計画書」を作成する。 ◇問題意識を高める。 アンケートの回答を踏まえ、自分の係の活動報告を書いておく。	○2学期最初の学級活動で「2学期に必要な係を決めよう」を行っておくことで、係活動の意義について考えられるようにする。 ○係の活動がスムーズにスタートしたか、予定どおりに進んでいるかなど現在の様子が分かるようなアンケートを行わせる。 ○アンケート結果から、どの係の活動が充実した活動をしているか、計画委員と教師で話し合う。 ○スムーズな話し合い活動になるようにするため、司会や記録など、役割分担を確認させる。 ○アンケート結果を掲示しておき、自分の活動について振り返らせておくことで、自主的に話し合いへ参加できるように声を掛ける。	◎当番活動と係活動の違いを確認し、充実した係活動にするために話し合うことが分かる。(知識・技能)【アンケート】
本時の活動	2. 解決方法等の話し合い ◇問題を把握する。 よりよい係活動について考える。 ◇原因を追求する。 現在の活動について、係別で話し合う。 ◇解決方法を見付ける。 「係計画書」の加筆・修正を行う。 3. 解決方法の決定 ◇個人目標の意思決定をする。 個人目標を考える。	○充実しているとはどのような活動なのか、具体的な活動を全員で考えさせる。 ○自分の係の仕事内容や活動の様子について振り返ったり、他の係の活動を知ったりするために、活動報告を行わせる。 ○係別で話し合うことで、自分たちの活動の見直しができるようにする。 ○一人の係は一人の係同士でグループを作り、お互いにアドバイスし合える環境を作っておく。 ○話し合いの意見を参考にして、「係計画書」に赤鉛筆で加筆・修正して完成させる。 ○責任をもって仕事を行う意識を高めるために、個人目標を設定し、話し合ったグループで交流させる。	◎よりよい係活動になるように、今までの仕事を振り返り、係計画書を加筆・修正している。(思考・判断・表現)【係計画書・観察】
事後の活動	4. 決めたことの実践 ◇粘り強く実践する。 意思決定したことを継続して実践しようとする。 5. 振り返り ◇定期的に振り返る。 「係計画書」に振り返りを記入する。	○係の仕事がスムーズに進んでいるかを確認するために、月1回振り返りを記入するように、継続して声を掛ける。 ○帰りの会で「係からの連絡」を活用し、活動報告を定期的に行い、各係の活動を知る機会を作る。	◎学校生活をより楽しく豊かにするために、決めたことを実践しようとしている。(主体的に取り組む態度)【観察・係活動計画書】